

令和5年度 リニア駅前広場整備における3つのプロジェクトの報告について

リニア推進部リニア整備課

1 次世代インフラプロジェクト

リニア駅前広場整備を進めていく上で、高架下空間を含めたリニア駅前広場に求められる機能やレンタカー・カーシェアリング、駐車場等のあり方についてコロナ禍や社会情勢等の変化を踏まえた検討を進めていくため調査を実施した。

(1) リニア駅前広場に求められる機能について

ア 調査対象及び質問内容

調査対象 質問項目		飯田市周辺地域	県外居住者	長野県内居住者
		飯田市、伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡、下伊那郡	東京圏、中京圏、関西圏、長野県・新潟県・富山県内の北陸新幹線駅（ターミナル駅除く）の利用経験者	軽井沢駅、佐久平駅、上田駅、飯山駅のP&R・送迎経験
来訪動機 来訪時の過ごし方	・リニア利用の時 ・リニア利用しない時 ・利用シーン等	○		
乗り換え (新幹線→公共交通)	・乗換え時の困りごと ・待ち時間の過ごし方の困りごと		○	○
乗り換え (自動車→新幹線)	・パーク&ライドの実態困りごと ・送迎の実態			○

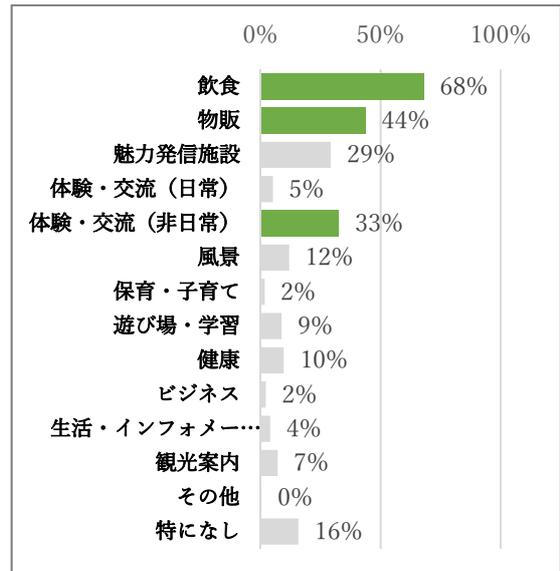
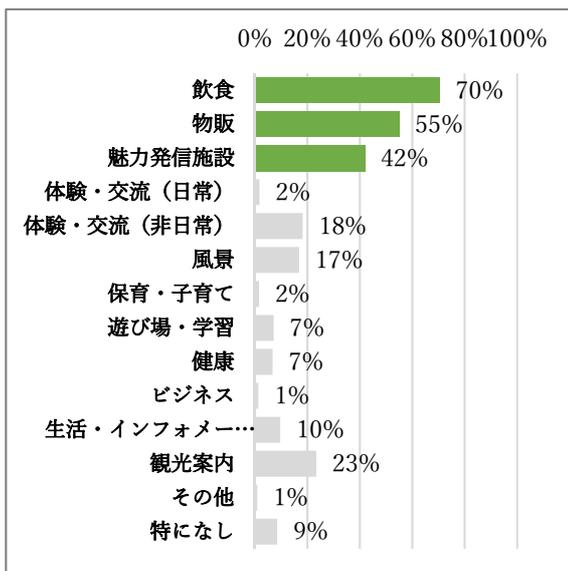
イ 調査結果

(飯田市周辺地域居住者)

①リニア駅への来訪動機及び来訪時の過ごし方について

(リニア利用の時)

(リニア利用しない時)

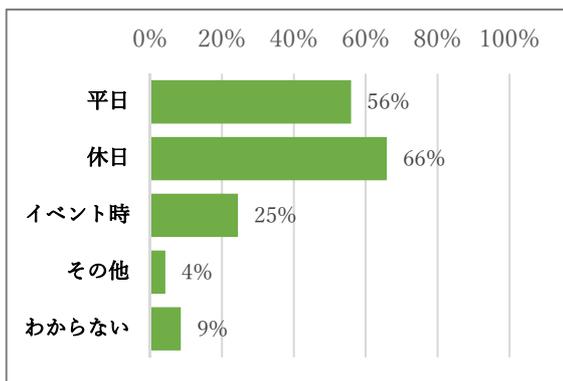


※ 飲食：レストラン、食事処、カフェ、パン、居酒屋
 物販：コンビニ、雑貨、ドラッグストアなど
 魅力発信施設：地元特産品の販売、文化芸術等の発信、展示スペース

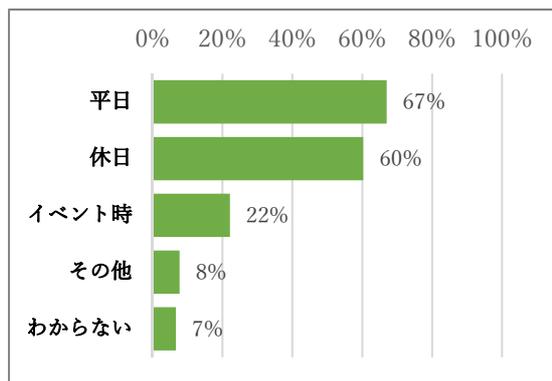
- ・リニアを利用する際には飲食、物販、魅力発信施設のニーズが高い。
- ・リニアを利用しない場合でも、駅前広場へ来訪したくなる施設・機能等のニーズとして、リニア利用時と同じく「飲食」が多いほか、「非日常の体験・交流」などの機能を望む回答がある。
- ・飲食はリニア利用の有無にかかわらず利用者のニーズが高いと想定され、広場の魅力を高める効果があると考えられる。

②リニア利用しない時の来訪シーン（いつ、誰と、どれくらいの頻度で）

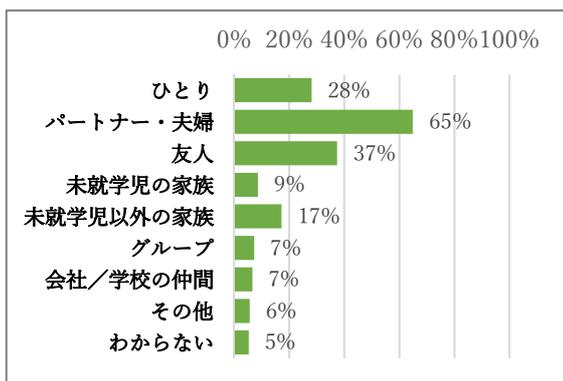
いつ（飲食）



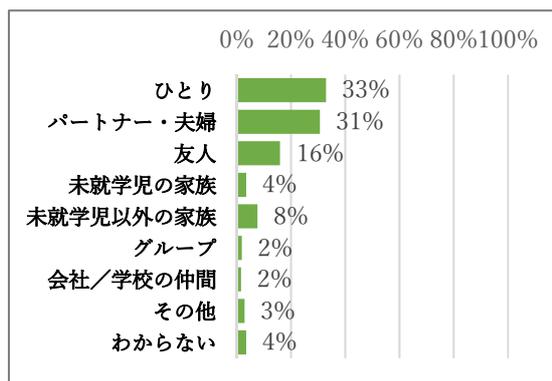
いつ（物販）



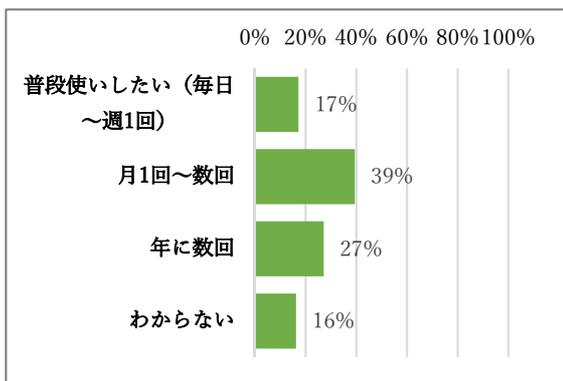
誰と（飲食）



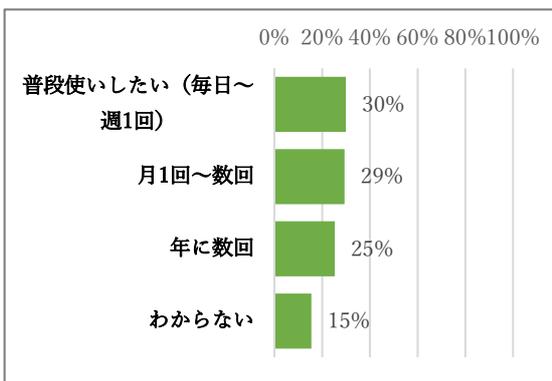
誰と（物販）



どれくらい（飲食）



どれくらい（物販）

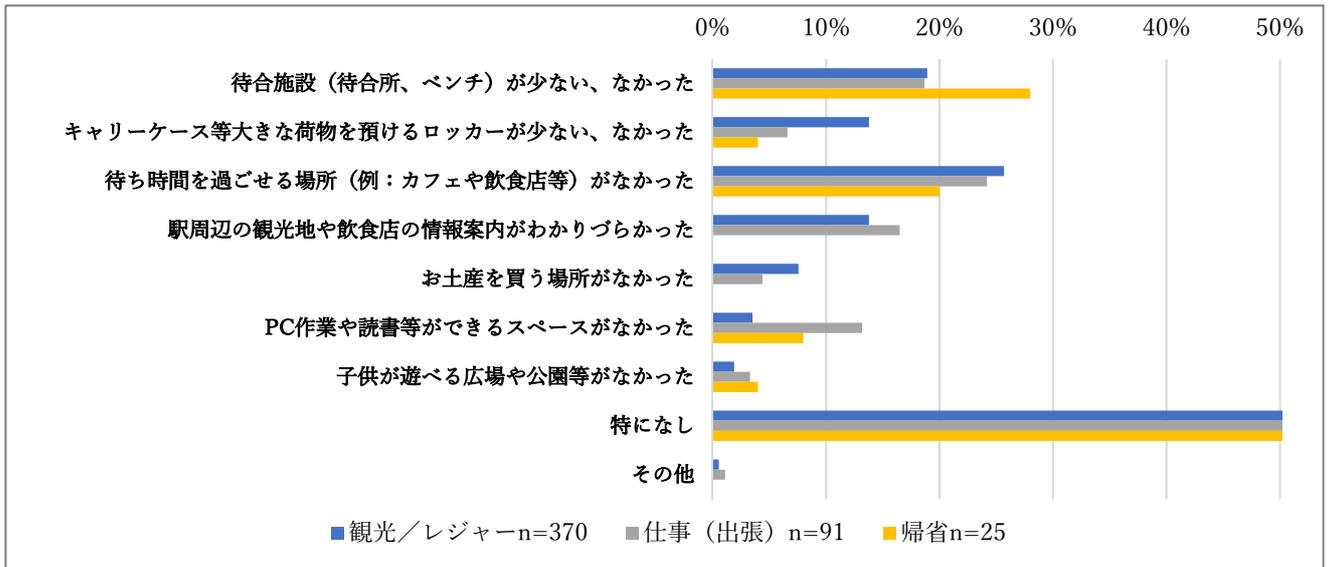


- ・リニア駅の利用シーンでは、「飲食」は主に休日に、家族や友人で月に数回程度訪れたいとの傾向が見られた。
- ・「物販」は平日に少人数で普段使いの来訪動機となる傾向がみられる。

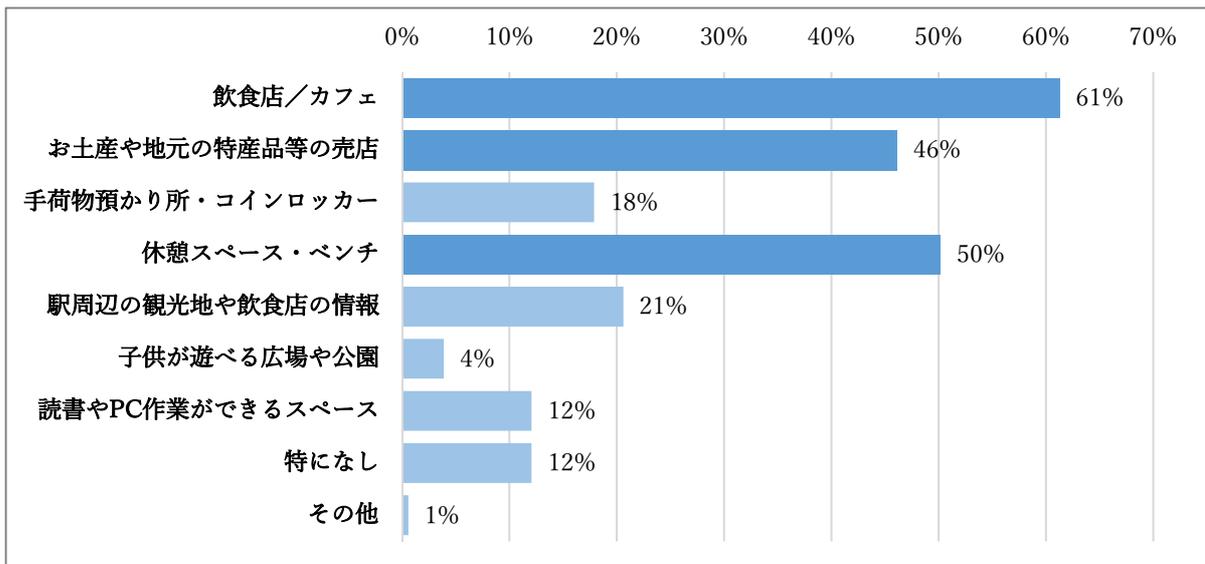
(長野県外居住者)

③乗り換え（新幹線→公共交通）

(新幹線駅での乗り換えの困りごと)



(待ち時間を過ごす上でほしい施設や設備)



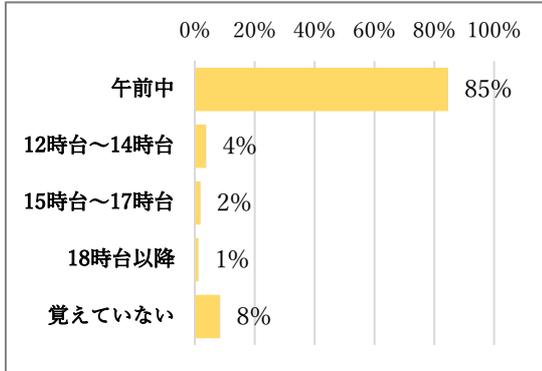
- ・「特に困りごとはない」という回答を除くと「待ち時間を過ごせる場所(カフェ、飲食店)がなかった」、「待合施設(待合所、ベンチ)が少ない」、「駅周辺の観光地・飲食店の情報案内がわかりづらい」との意見がある。
- ・待ち時間を快適に過ごす上でほしい施設や設備として、「飲食店やカフェ」、「休憩スペース・ベンチ」、「お土産や地元の特産品等の売店」を望む意見が多い。
- ・駅周辺の観光情報や飲食店情報、コインロッカー、ビジネスでの来訪者向けのPC作業や読書スペースを望む意見もある。

(長野県内居住者)

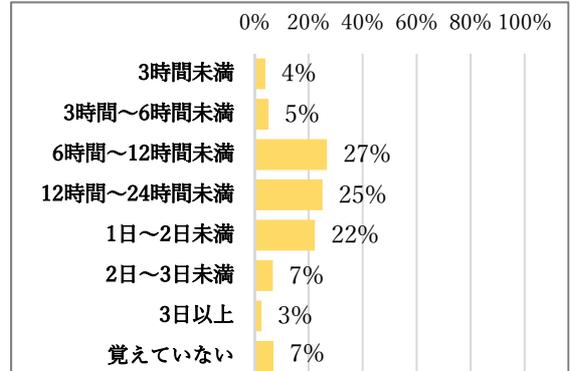
④乗り換え（自動車→新幹線）

(パーク&ライド (P&R) の利用実態について)

(入庫時間)

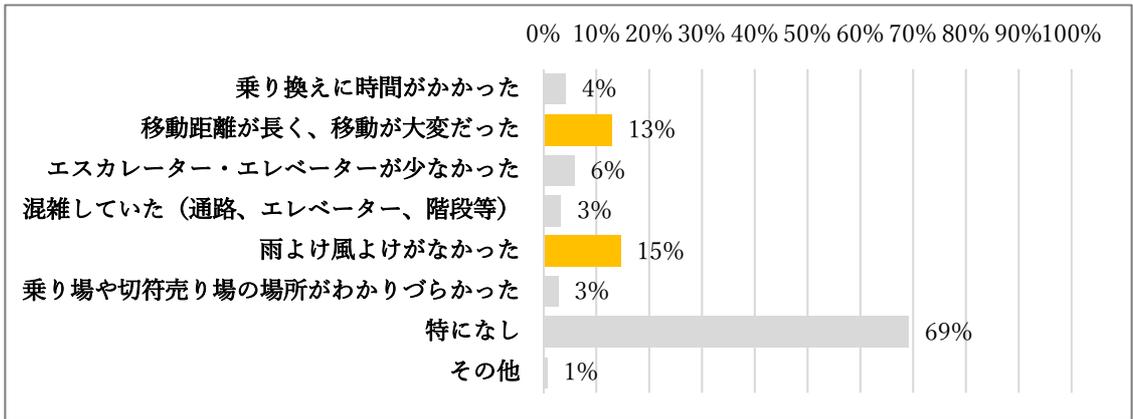


(駐車時間)



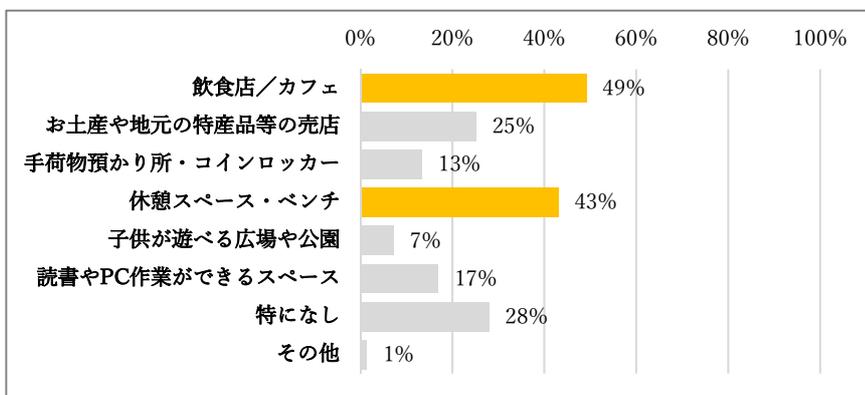
・P&R 駐車場の入庫は午前中に集中し、駐車時間は半日が 27%、半日から 1 日が 25%、1 日以上は 32%となっており、全体の 3 割は 1 日以上駐車している実態がある。

(乗り換えの困りごと)



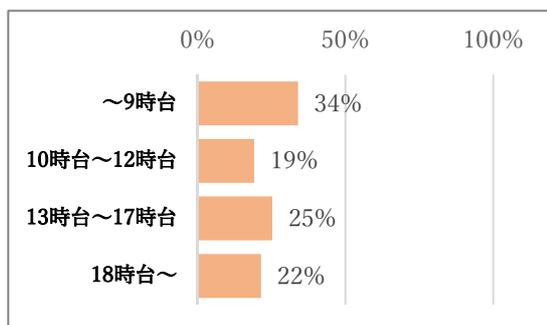
・自動車から新幹線への乗り換え時の困りごととしては、「特になし」が 7 割を占める。
・駐車場から駅までの移動距離や雨除け設備がないことによる不便さを指摘する回答がある。

(乗り換えの待ち時間にほしい施設)

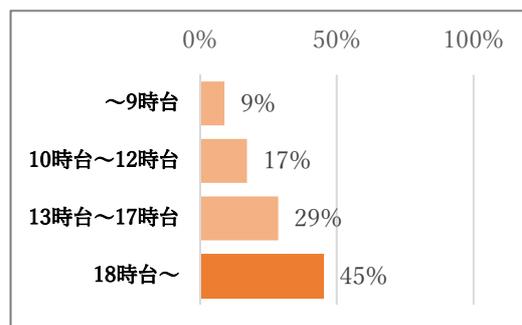


・待ち時間を快適に過ごすための施設等としては、県外居住者と同様に「飲食店やカフェ」、「休憩スペース・ベンチ」の設置を望む比率が高い。

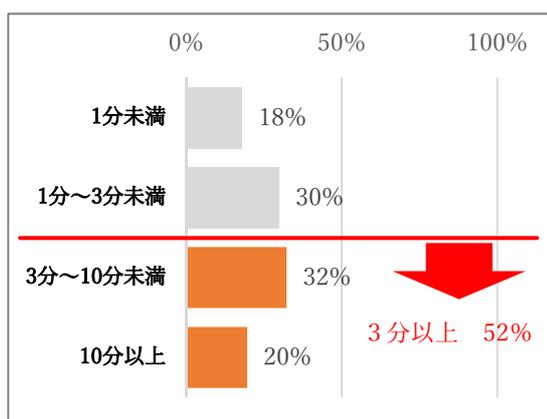
(送りの時間帯)



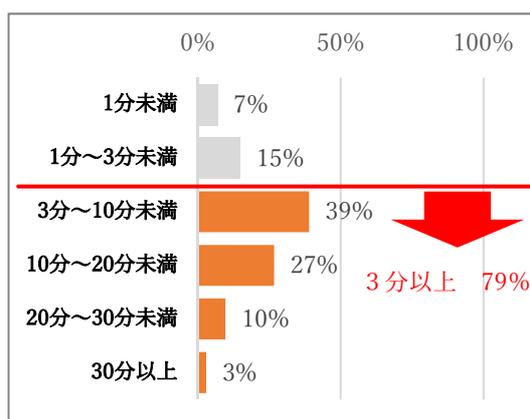
(迎えの時間帯)



(送りの駐停車時間)



(迎えの駐停車時間)



- ・送迎の時間帯は、送り側は朝から夕方まで分散しているが、迎え側は 18 時台以降に集中する傾向がある。
- ・送迎者の駐停車の時間は、送り側は3分以上が 52%に対し、迎え側は3分以上が 79%であり、迎え側の駐停車時間が送り側より長い傾向にある。
- ・送迎時の平均駐停車時間は、送り側が約 5 分、迎え側が約 10 分と、迎え側が送り側より 2 倍程度長いという実態がある。

ウ 今後の進め方

- ・リニア利用の有無にかかわらず、「飲食」や「物販」のニーズが高いことから、民間事業者との意見交換を通じて、高架下空間や広場内に整備すべき内容の具体化を進める。
- ・「体験・交流」などのイベントは子ども連れ家族や友人等との来訪動機となり、駅への来訪頻度を高めることが期待されることから、イベントやワークショップなど駅前広場の活用方法の検討を進める。
- ・リニア駅前広場の活用については、今回の調査結果を踏まえ、公民協働ブランドクリエイトプロジェクトの活用方法の検討と連携しながら、整備に反映していく。

(2) レンタカー・カーシェアリング調査

ア 調査内容

飯田市周辺で営業しているレンタカー・カーシェアリングの事業者に対して、市内周辺地域の利用実態、リニア駅整備に伴う駅前での営業の意向、ならびに営業時に必要とする設備を把握するため、ヒアリングを実施した。

イ 調査結果

- ・事業者へのヒアリングからリニア駅周辺での営業判断はリニア駅の利用規模を見極めて判断するとの意見が多数を占める。
- ・事業者が新たに店舗を構えるような事業参入については採算性の観点から課題があるものの、高架下空間等にカウンター型店舗のようなイニシャルコストを低減できるような出店形態については前向きな意向が示された。
- ・全国的な事例として、地方空港には空港内にレンタカー設備を有し、空港敷地内にカーシェアリングのポートが整備されている空港もある。空港では空港内の駐車場にレンタカー事業者が共同駐車場を整備し、送迎を行わずシームレスな貸渡しを目指し、実証実験を行う動きがある。

ウ 今後の進め方

- ・二次交通としてのレンタカーの営業を促す方法として、高架下空間にカウンター型店舗を設置することにより、利用者の利便性を高め、事業者のイニシャルコストの抑制が期待できることから、高架下空間の活用も視野に入れて情報収集を行っていく。
- ・当地域のカーシェアの普及・定着については、今後のサービス内容の変化などの動向を注視しながら、情報収集を行っていく。

(3) 駐車場システムに関する調査

ア 調査内容

利用者が使いやすく、効率的な駐車場管理・運営を行うため、具体的な駐車場設備の内容や将来の技術に対応した駐車場整備のあり方を検討するため、ヒアリング調査を実施した。

イ 調査結果

- ・ゲートレス駐車場は商業施設での導入実績はあるが、未払いの発生が懸念されることから公共施設の駐車場では導入実績が少ない。
- ・車番認識システムは事前精算が可能となり出庫時の渋滞回避に効果がある。

ウ 今後の進め方

- ・8割以上が午前中の中の入庫となることから、駐車料金の差別化、予約制の導入を図るなど、駐車場利用者の集中に対する対策を検討する必要がある。
- ・ゲートレス駐車場は料金の未払いが発生しやすく、確実に料金を受領できるゲート式駐車場の導入が望ましい。
- ・車番認識システムは事前精算が可能となり、リニア発着時に集中する出庫においても出口の渋滞回避効果が期待できるため、引き続き、検討を進めていく。
- ・リニア開業までには駐車場設備における技術の進展が予想されることから、リニア開業時の駐車場システムについては、駐車場システムの情報収集をしながら検討していくことが必要となる。
- ・当面は、広場の部分供用を行った場合の駐車場の管理方法について協議を進めていく。

2 トータルデザインプロジェクト

「飯田・リニアデザインノート」にある駅前広場空間の実現に向けて、大屋根設計業務に着手した。また、リニア駅周辺における景観のあり方について検討するため、リニア駅前広場の空間デザインについて検討した。

(1) 木造大屋根実施設計業務

ア 実施内容

- ・大屋根の実実施設計発注に向けて仕様確認及び関係機関との条件整理を行い、実施設計発注に必要な図書の作成を行った。
- ・実施設計事業者を選定するためプロポーザルを実施し、地元9社で構成する設計チームに業務を発注した。

イ 進捗状況

- ・当地域の木材や建築事情に精通する設計事業者が共同体制を組み、地元産材の活用や大屋根の維持管理体制の構築も含めて実施設計業務を進めている。
- ・駅前空間のシンボルとなる大屋根に地域産木材の活用を進めるため、地元産材に関する情報収集を行うとともに、木材の調達体制について検討を進めている。
- ・JR 東海を含めた関係機関と大屋根の配置や工法等について協議し、設計に必要な条件等の整理を行っている。

ウ 今後の進め方

- ・令和6年度内に木造大屋根の実実施設計業務を完了させ、建築に必要な地域産木材の調達方法について検討を進める。
- ・市民に愛着を持っていただける大屋根になるよう、公民協働ブランドクリエイティブプロジェクトと連携して大屋根のワークショップや建築工事の見学会など市民に参画いただく機会を設けていく。

(2) リニア駅周辺における景観のあり方の検討について

ア 実施内容

- ・駅前広場の建築物やサイン等の調和を保つため、リニア駅前空間の意匠基準について関係者と検討し、リニア駅前広場における建築物等の形態意匠基準について方向性を示した。
- ・リニア駅前広場に設定した視点場からの眺望を検証し、駅周辺の景観や建築物の高さ制限などの基準を示す「環境・景観配慮指針（案）」の作成に向けて協議を進めた。

イ 取組結果

- ・リニア駅前広場全体の空間デザインの考え方として色彩、素材、照明、緑化などの考え方をまとめた。
- ・リニア開業後に、新たに建築物や工作物、看板等を設置する際の検討組織として、専門家や市民で構成する「デザイン検討会（仮称）」を設け、対話による駅前広場空間のデザインのマネジメント体制の考え方をまとめた。
- ・「環境・景観配慮指針（案）たたき台」をまとめ、リニア駅前広場の空間デザインの考え方について地元との協議を行った。

ウ 今後の進め方

- ・広場内の植栽については地域固有の樹種やシンボルツリー等の検討を進める。
- ・JR 東海で進めている駅舎との調整を図り、リニア駅前空間と調和した駅舎となるよう、JR 東海や関係機関と協議を進める。
- ・リニア駅からの眺望を含め、リニア駅周辺とその近郊における景観のあり方の検討を進める。

3 公民協働ブランドクリエイティブプロジェクト

リニア駅前広場の管理運営を担う事業体を組成するため、魅力発信機能の充実や維持管理など民間の事業体を主体とする管理運営事業体を組成するための検討を進めた。

(1) 検討体制

- ・プロジェクトリーダー 中嶋聞多信大特任教授
業務委託事業者 NTT データ経営研究所

(2) 検討内容

- ・管理運営事業体の方針、目指す姿、事業内容、事業体制について検討した。
- ・地元事業者及び各種団体とのヒアリングによる意見交換を行った。
- ・民間事業者が参加できるプラットフォーム構築に向けた検討を行った。

(3) 検討状況

- ・管理運営事業体は「飯田・リニアデザインノート」に示された整備の考え方を前提に、広場内の施設・設備を活用した事業を行うことを想定し、自然エネルギーや地域の魅力を活かした事業展開ができるよう検討している。
- ・管理運営事業体の設立にあたっては、イベントや観光による変動的な収益に軸を置くのではなく、様々な安定的なサービスを組み合わせ、事業体全体として経済的に自立した運営体制が構築できるよう協議を行っている。
- ・駅前空間で提供するサービス、必要な設備、事業体として参画するための条件などプラットフォーム（意見交換の場）で協議すべき内容について整理し、設置に向けた協議を進めている。

(4) 今後の予定

- ・管理運営事業体に参画を希望する民間事業者等が、駅前広場の事業内容や運営方法について検討するプラットフォームを構築し、駅前広場の活用について検討を進める。
- ・リニア開業時期の状況によっては駅前広場を一部供用していくことも想定しながら、管理運営事業体の組成、広場活用の具体化を進めていく。
- ・管理運営事業体の安定的な収益を支える事業について引き続き検討する。

4 信州大学との共同研究

公民協働ブランドクリエイティブプロジェクトにおける地域の魅力情報の発信に向けた取り組みとして、リニア開業後のインバウンド需要を見据えたブランディング方略について信州大学と共同研究を実施した。

(1) 目的

リニア中央新幹線及び三遠南信自動車道の開通を契機とした飯田・下伊那地域のグローバル・ブランディングの方略について、信州大学の専門的な知見から学術的に検証し、飯田・下伊那地域の本質的な価値について明らかにすることで、地域に根ざしたブランド構築を進める。

(2) 研究テーマ

「飯田・下伊那地域の文化における本質的価値とは何か」

(3) 研究の進め方

- ・ブランディングを進める上で地域の歴史や文化は大きな要素であることから、歴史・文化的な側面から飯田・下伊那地域の本質的価値（地域個性）をとらえることとした。
- ・専門家による講演や意見交換を通じて、他の地域にない特徴として、年代を越えて重層的に継承されてきている民俗芸能はこの地域の個性となりうることを確認した。
- ・地域個性を認識するための一節（タグライン）とそれを表現する映像を研究成果として作成し、地域の本質的価値としてまとめた。

(4) 研究会について

8月の開催から全8回の研究会を開催し、前半は飯田・下伊那地域の文化や歴史、民俗芸能やブランド方略に関する4人の専門家を招いて講演会を実施し、その内容を踏まえて参加者による議論を行った。後半は映像制作に向けた議論を中心に研究会を開催した。

ア 研究体制

（研究者）林 靖人 副学長、中嶋 聞多 特任教授、菊池 聡 教授、勝亦 達夫 講師

イ 研究会の開催状況

- ・第1回目の研究会を8月に開催し、3月まで全8回の研究会を開催した。
- ・前半は飯田・下伊那の文化や歴史、民俗芸能の専門家を招いて講演会を実施し、講演内容を踏まえて参加者による議論を行った。
- ・後半は映像制作に向けた議論を中心に研究会を開催した。

ウ 研究会の成果

- ・地域の歴史や文化にもとづく本質的価値（地域個性）として、地域を代表する民俗芸能のひとつである遠山郷霜月まつりを映像化し、タグラインを「鄙（ひな）の風流が息づく地：南信州」としてまとめた。
- ・飯田・下伊那地域の伝統芸能は時代を越えて重層的に継承されており、遠山郷霜月まつり以外の人形芝居や花火など他の芸能や祭りについても、リニアの開業を見据え、映像化の提案をいただいた。

エ 今後の取組み

- ・制作した映像を飯田市のホームページで公開し、地域内外に向けて発信を行う。
- ・地域住民や関係者等による試写会等を通じてヒアリング、アンケート等を実施し、映像の評価、評価の検証を行う。